

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471100236		
法人名	医療法人 茜会		
事業所名	グループホーム みやき		
所在地	三重県熊野市久生屋町541		
自己評価作成日	令和4年2月14日	評価結果市町提出日	令和4年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2471100236-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 4年 3月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の下で、安心と尊厳のある生活を営むことを支援している。特に、体操やレクリエーション、また、健康管理に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然豊かな住宅地の中にありデイサービスセンターが併設されている。四季を感じる事が出来る畑や果樹園があり、各居室から広い庭園を見たり、外に出て散歩するものが日課となっている。新型コロナウイルスから利用者の身を守ることを最重点とした支援に取り組み、家族・知人との面会も制限された。訪問日も常勤の看護師による抗原検査を受けて玄関より事業所内へ入る。外出や地域との交流も制限される中、利用者と家族の窓越し面会を目のあたりにして、双方が笑顔で話している家族愛のひとつコマを見ることが出来る。現状況下で、ホーム長は職員と共に何が出来るかを考え、利用者一人ひとりを尊重し、その人らしい生活の支援が出来るように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慌てず、ゆっくりのんびりと」をモットーに、職員で共有し実践に繋げている。	昨年、法人の理念を変更した。事業所の理念も法人と同じとしてホールなどに掲示し、朝の申し送りやミーティングで確認し合いながら理念の意義に振り返り、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、新型コロナウイルスの関係で実践できていない。	地区の自治会に加入しており、日ごろから地域との交流を大切にしている。イベント活動などに参加していたが、コロナ禍で自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同上		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルスの関係で、2回しか会議を行っていないが、そこでの意見を活用している。	今年度もコロナ感染症防止の観点から年2回の開催となった。包括支援センター・区長・民生委員・家族代表等の参加で併設事業所と共に行い、事業所の利用状況、活動報告、参加者からの意見・要望を出して頂き、サービス向上に活かすように努めている。	運営推進会議の参加者からの素直な意見を頂くことは大切であり、出席しての開催は困難でも文書による報告から意見を頂き書面会議として参加者が積極的に関わられるような働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。	介護保険の手続きや併設事業所との関係で介護支援専門員が良く出かけている。行政相談に乗ってもらうなど関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回、実践講習等を開催し、職員の意識向上に心掛けている。	毎月の職員会議の後で身体拘束や言葉による拘束について話し合い、拘束の無い支援の在り方について取り組んでいる。特に言葉の拘束予防についての意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員研修を行い、入浴時や、排泄時に身体チェックを行い見過ごすことのないように注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用の機会がなく、行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を行い、改正の前にも説明等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に面会時等に日ごろの状況を伝え、意見要望を参考にし、質の向上に活かしている。	コロナ禍で面会中止もあったが現在は窓越し面会をしている。遠くの家族の来所時は抗原検査をしている。ホーム長や職員は話しやすい雰囲気作りに心がけ、意見や要望を聞き、申し送りノートに記入している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意見、提案をし、話し合える環境を設け、外部研修にも参加し、反映させている。	毎年、本部役員と職員の面談があり、意見や提案が出しやすい職場環境となっている。日々のケアではホーム長がその都度聞き、利用者支援にも良い影響を与えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備を心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加し、施設内で技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等、同業者と交流し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学して頂き、施設の説明や本人の要望等を聞き、安心して生活が送れるようなサービスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学して頂き、施設の説明や本人の要望等を聞き、安心して生活が送れるようなサービスを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員及び職員で情報を共有し、サービスの提供を行っている、併設しているデイサービスとの交流も図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事を探し、声掛けをしながら一緒にできる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに写真を送付し、体調変化時は電話連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの関係で、外出はできないが面会(窓越し)を通して、関係維持に努めている。	馴染みの人達もコロナ禍で事業所への訪問も少なくなってきた。以前は併設デイサービス利用者との交流をしていたが、今は中止している。窓越し面会を通じて関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し機能訓練やレクリエーション等で関わり合いができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や退所した方に、お見舞いや連絡を取り信頼関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で本人の体調や意向に反映できるように職員間で情報を共有している。	職員は日々の支援の中で聞いたことや利用者の表情から汲み取ったことなど、申し送りノートに記入し、職員間で共有している。又、ナースコールで呼ばれて、ゆっくり居室で話し合う時もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に話を聞き、これまでのアセスメントを把握しサービスに心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で日頃のバイタルサインや機能訓練等の変化に気付き一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝の申し送り、毎月のミーティング等で職員間で意見を出し、6ヶ月に1回の計画書見直しを計画書に活かしている。	各利用者に担当職員を配置し、毎月のケア会議でモニタリングをしている。介護支援専門員が介護の現場に携わっているため、利用者一人ひとりの状態を把握でき、計画書の作成および6か月ごとの見直しや随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤の状態を記録に残し情報や注意点を共有し援助方法や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状態に応じた支援を行い、ほかの様々な面で柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の見守りや外出など、外部刺激も受けながら楽しみのある暮らしの支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医院への受診支援を行い、一人一人の適切な医療が行えるように支援を行っている。	3名は今までのかかりつけ医で、他5名は協力医であり、それぞれの受診支援は常勤看護師が同行している。日常の健康管理は24時間体制で、利用者が常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し適切な受診や処置が行えるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と相談し、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていないため、終末期に向けて家族様等に説明を行っている。	入居時に、利用者・家族に重度化や終末期の支援は出来ないことを説明し、理解してもらっている。医療行為が必要になった場合は、再度、家族や関係者と話し合い、地域の病院や施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており、定期的に共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災への参加や夜間、昼間を想定した防災訓練を消防署の協力を得て行っている。	年2回、消防署の立ち合いで避難訓練をしている。地区の防災訓練にはホーム長が参加し、地域との協力体制作りを努めている。水や食料品など5日分くらい備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊厳した声掛け、利用者の気持ちに寄り添う支援を行っている。	常に一人ひとりの人格を尊重し、利用者の立場を考えて、特に言葉遣いには注意する対応を心掛けている。また、個人情報の保護にも充分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を会話の中で聞き取り、自己決定ができない方には、思いをくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や状況に応じて、本人のペースで支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来てもらい自身の希望の髪形にセットしていただいている。その人らしい服装を選ぶように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、献立を組み立てている。(外食は、コロナの件で行えていない)	業者よりメニューで調理された食材が届き、ごはんや汁物は職員が手作りしている。畑でとれた野菜がメニューの一品に加わることもある。木の実(スモモ・甘夏・柿)はジャムにして食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取を記録(日誌)で把握し、一人一人の状態に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを行っている。ご自分でできない方には支援させていただいている。就寝前には義歯を預らせていただき、洗浄剤につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態や状況を把握し定期的に声掛けをして、トイレ誘導及び介助を行っている。排便、排尿等の記録をしている。	一人ひとりの排泄パターン記録や生活習慣を活かしながら、見守り・声掛け・トイレ誘導を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取を把握し排泄習慣を記録している。乳製品や機能訓練等での対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を設け、本人の体調に合わせて入浴を行っている。	バスリフトを備えた個浴対応の浴室で、週2回の入浴支援を基本としている。利用者の体調を見ながら、ゆっくり、対話しながら入浴出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせて居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と情報を共有し、職員間でも2~3回の薬の確認をして服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洋裁のお好きな方にはボタン付けや、洗濯物のたたみ等、一人一人に合った役割をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染症対策で、現在は外出できていない。	以前は散歩やドライブに良く出かけていたが、現在は受診以外、全てにおいて自粛している。ホーム長や職員は、事業所内での過ごし方を工夫して、室内レクリエーション・手芸品作り・おやつ作りなどを増やし、楽しんでもらえる支援に努めている。	コロナ禍で個々に沿った支援は出来難いが、利用者の思いや意見をくみ取れる機会を作り、利用者の気分転換、ストレス発散となるような外出支援を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で自己の財布を預かっており、現在は代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取扱いや文字を書くことができなくなってきているので、職員が対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、温度や湿度を適温に保ち、それぞれの趣味やテレビ鑑賞をしたりしてリラックスして頂いている。また、季節を感じていただけるように、飾りつけ等も季節のイベント毎に工夫している。	ホーム長の聞き取りにて・・・居間兼食堂は明るく壁には手作り額が飾られている。浴室やトイレなども清潔でスペースも充分確保され、ゆったりと気持ちよく過ごせるように、配慮された共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにソファを置き、ご利用者が個々に楽しめるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたものや、行事に参加した写真などを飾り、居心地の良い空間を作る工夫をしている。	一人ひとりが寛げる空間になるように、自宅で使い慣れた家具を持ち込み、安心して暮らせる工夫がされている。壁には家族写真が貼ってあり、忘れないように、優しい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールは十分な広さを確保し自由に移動できるように配慮し、トイレの場所は大きな字で書き、わかりやすいように工夫している。		